



校長室より



令和6年2月15日

No.23

木の芽起こしの雨に、春の訪れを実感する今日この頃、校内でも卒業式の練習が始まり、令和5年度も残すところわずかとなりました。一年間の振り返りの時期でもあります。高等部卒業生にとっては学校生活の振り返りにもなります。入学してきた時は、希望より不安の方が多かったらうし、やりたいことも見つけられていなかったのではないのでしょうか。本校で仲間と一緒に学ぶ中で、人に認められる経験、達成感が得られる体験を繰り返すことで、少しずつ自信をつけてきたのだと思います。

年度末は、児童生徒たちの作品が展示される機会も多い時期です。2月3日（土）・4日（日）、橋本市教育文化会館で開催された県科学作品展には、中学部の理科の学習の成果が展示されました。また、10日（土）・11日（日）には、古座川町民体育館で、県下の書初競書会中央作品展にも本校生徒の毛筆作品が展示されました。

14日（水）から19日（月）まで、和歌山県民文化会館において、第21回和歌山かがやき展が開催されています。会場には、県内の特別支援学校、特別支援学級の児童生徒の作品が1,030点展示されています。本校一学部（入院生）、二学部（通学生）のほとんどの児童生徒の作品も含まれています。どれも力作ぞろいで、観ているだけでエネルギーがもらえます。同期間、同場所で、第3回未来の匠展も開催されていて、県内の特別支援学校や作業所の作品が別ルームで展示されています。本校からは、高等部選択書道生徒の作品が6点展示されています。見事です。ね。



